

長岡京漢詩作詩研修会

平成三十年十二月発行第十三号

古
京
風
音

古京風韻 第十二号 目次

第十二号

目次

一、漢詩作詩研修会	古京風韻	第十三号発行に寄せて	伊藤鉄雄
二、漢詩集	梅林遇雪	伊藤鉄雄	
避暑愚作	石澤賀笙翠		
看二月堂修二會	今西進		
向日葵	入谷君子		
秦淮河春遊	岩松峰明		
寄奉先洞盧舍那佛	鶴野高資		
望比叡山	奥信		
新秋野郊	加賀山尚子		
夏日嵐山舟遊	加藤初恵		
觀嵐山櫻花	川勝芳三		
寄新年互札会	久保正鳳		
閑歩春容聽鐘聲	小林清夫		
春日偶成	小林亨江		
苦蚊	坂本敏一		
飾椿之落花	櫻井登志子		
無常迅速	佐々木一景		
春日郊行	竹下信治		

小泉川堤上櫻花
改元歲來年

歴訪大塚國際美術館
訪因幡路

新春偶成

古京秋情

漢詩作詩研修会感懷

古都洛外西山春日

詠西郷隆盛

夏日午眠

西國巡礼

新秋偶感

一枝竹図

洛西紀行

金剛山登山

立林好栄

玉岡 瞳

辻 美代子

中川岩雄

橋本孝司

長谷川 功

福岡太郎

林 克宏

藤田 忠

前田正子

水木静爽

山際和子

山科三千代

山本長司

和田敦子

...

...

...

...

...

...

...

四、編集後記

三、漢詩作詩研修会の歩み活動報告

長岡京漢詩作詩研修会「古京風韻」第十二号発行に寄せて

長岡京漢詩作詩研修会 代表 伊藤 鉄雄

早いもので今年も古京風韻の発行の時期となりました。

会員の皆様には日頃の活動に御協力いただきありがとうございます。

今年の八月十一日（祝日）の漢詩作詩研修会で例年ですと外部講師の先生に御講義いただくところ御都合がつかず小林先生に御担当いたしたこととなりました。

演題は、「漢文を書き論語の学習」で先生の集大成の資料にもとづき親切丁寧に御講義いただきました。御高齢を押して御対応いただき感謝にたえません。

参加者二十名で最近としては、まことに盛況でした。

尚、今回の古京風韻は三十二名の人が投稿され、昨年の三十五名と比較にしますと、若干、減少傾向ですが、皆様の漢詩作詩に対する熱意で、ここに第十三号が出版され感謝にたえません。

来年は、今年を上回る投稿を期待しておりますので宜しくお願ひします。

又、活動への参加者を増加する為に、お知りあいで興味のある方々へのPRもお願ひします。

最後になりますが、今後とも日頃の研修成果を發揮していただき、四季それに変わる自然の風光、その中にあって、日々の心の動き等を表現した素晴らしい漢詩が出来ますことを、ご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

梅林遇雪

伊藤 鉄雄

早春林下薄寒天

そうしゅん りんか はくかん てん
早春の林下 薄寒の天、

遇雪催詩韻事牽

ぐうせつ し もよお いんじひ
遇雪詩を催し 韵事牽く。

馥郁紅梅花點點

ふくいく こうばい はなでんてん
馥郁たる紅梅 花点々、

冰姿的爍暗香傳

ひょうし てきれき あんこうつた
冰姿的爍 暗香伝う。

(訳文)

早春の梅林のもと身にしみる寒さの天、
偶然にも雪に会い詩興を催し風雅をひく。

馥郁とした紅梅の花が点々と開き、

雪が花についた氷の姿は鮮やかで暗香を伝えている。

避暑偶作

石澤賀笙翠

暑熱炎威三伏天

暑熱の炎威三伏の天、

山莊爽氣避塵緣

山莊の爽氣塵縁を避く。

輕衫紈扇臥牀冷

軽衫紈扇臥牀冷やかにして、

謾謾松風高枕眠

謾々たる松風に枕を高うして眠る。

(訳文)

あつく燃え上がるようなこの時期に、

山の別荘の爽やかさに世俗の煩雜さをさけ。

身軽なひとえの衣に絹ばかりの扇を片手にねどこは涼しく、

松風をききながら枕を高くして眠りについた。

看二月堂修二會

今西進

叢林東大暮煙浮

そうりんとうだいぼえんうか
叢林の東大暮煙に浮び、

千載連綿行法修

せんざいれんめんぎょうほうしゆ
千載より連綿行法修む。

欄上松明炎粉散

らんじょうしゃうみょうえんぶんさん
欄上の松明炎粉散じ、

壯觀懺悔興偏幽

そうかんさんげきょうひとえゆう
壯觀たる懺悔の興偏に幽なり。

(訳文)

奈良東大寺城が夕暮れに浮かび、

二千百余年来続く仏教儀礼が行なわれています。

欄上松明は炎粉が舞い、

雄大な二月堂は映え、その趣は幽玄の世界です。

向日葵

入谷君子

光入南窓今日晴

ひかりなんそういこんにちは
光は南窓に入り今日晴れる、

荒畦農圃點紅英

こうけいのうほこうえいてん
荒畦の農圃に紅英點ず。

葵傾如慕天公徳

きけいてんこうとうした
葵傾天公の徳を慕うが如し、

四海嬉来自太平

しかいよろこきおのすかたいへい
四海嬉び來たりて自ら太平なり。

(訳文)

太陽の光は南の窓に差し込み今日もいい天気、

あぜ道のある畠には美しい花が咲いている。

ひまわりは太陽の動きについて方向をおう言わばお天と様の徳をしたうようで、
世の中全体が明るく天下太平であつてほしい。

秦淮河春遊

岩松峰明

竟夕紅燈歡樂街

きょうせきこうとうかんらくまち
竟夕紅灯歡樂の街、

彩舟商女過秦淮

さいしゅうしようじよしんわいす
彩舟の商女秦淮を過ぐる。

鳴琴迤邐咽煙柳

めいきんいりえんりゆうむぎ
鳴琴迤邐として煙柳に咽べば、

中聖不如斯調佳

せいあこしゃべかし
聖に中たるも斯の調の佳に如かず。

(訳文)

夜を通してネオンまたたく遊びの里、

出でまし妓女は舟の中、ユルリユラリと秦淮河を下る。

今聞こえたる琴の音は、けぶる緑の柳枝にぞ這わん、

呑みたる酒は多けれど、この琴の音にはかなわない。

秦淮河||南京市の南郊を流れる運河の中華門近くの繁華街。彩舟||飾りたてた舟(観光船)。商女||客をもてなす女芸者、
迤邐||連続する様子。中聖||中はしたたかに酔うこと、聖は清酒。

寄奉先寺洞盧舍那佛

鵜野 高資

龍門山壁窟千重

りゅうもん さんべき いわやせんじゅう
龍門の山壁 窟千重、

眼下伊河寫玉容

がんか いが ぎょくよう うつ
眼下の伊河 玉容を写す。

聞説上元完遂佛

き なら じょうげん かんつい ほとけ
聞く説く 上元 完遂の仏、

疑方武后示威濃

うたが まさ ぶこう しいこま
疑うらくは方に武后 示威濃やかなるかと。

(訳文)

洛陽南郊龍門山の壁面には仏像がおわす窟が幾重にも連なり、

眼下に流れる伊河には、盧舍那仏の顔が写っています。

聞くところこの石仏は、上元元年（六七五年）に則天武后的寄進で出来上がりました、
この尊顔は武后のお顔に似せたものでしようか。

本作品は第九回諸橋撤次博士記念漢詩大会（平成二十九年十一月十三日）の優秀賞、
中華人民共和国駐新潟総領事賞の受賞作品です。

望比叡山

奥信

比叡山頭早曉清

ひえいざんとう そうぎょううきよし
比叡山頭早曉清、

千年鎮座護王城

せんねん ちんざ おうじょう まも
千年鎮座し王城を護る。

古先戰國思爭霸

こせん せんごく そうは おも
古先の戦国 争霸を思えば、

獨善不知民衆聲

どくぜん みんしゅう こえ し
獨善たり 民衆の声を知らず。

(訳文)

比叡山の辺は、夜明けの清々しい明るい静な風景が開ける、
千古の昔から京都の北東に、鎮座し都を護つてているようです。

古き昔の戦国時代には、権力闘争の戦が有り。総て京の都を目指して、
民衆の声も知らず、勢力争いをしていた時代も有ったようだが。

新秋野郊

加賀山尚子

郊墟爽氣聽秋聲

こうきよ そうき しゅうせい き
郊墟の爽氣 秋声を聴く、

霎雨沾花涼味盈

しょうう はな うるお りょうみみ
霎雨 花を沾し 涼味盈つ。

偏好永夜風露漾

ひとえ よ えいや ふうろただよ
偏に好し 永夜 風露漾い、

不知枕畔月華明

し ちんはん げつかあき
知らず枕畔 月華明らかなり。

(訳文)

田舎はあたり一面爽やかで秋の気配です、
一ふりの雨は花を沾し涼しさがあふれています。
また長き夜に風露がただよっているのは正に趣があり、
知らぬ間に枕のまわりは月の光が差し込んでいます。

夏日嵐山舟遊

加藤 初恵

微涼一夕泛輕舟

微涼一夕輕舟を泛かべ、

碧水滔滔載夏流

碧水滔々夏を載せて流る。

橋畔浮嵐山映裏

橋畔の浮嵐山映の裏、

波心月下似清秋

波心月下清秋に似たり。

(訳文)

まだまだ暑い夜、舟に乗り、

滔々と流れる大堰川は今、三伏の夏。

嵐山に囲まれた渡月橋の辺りは山気に溢れ黄昏を迎える頃、

月の光が映り清らかな秋に似た美しさです。

觀 嵐 山 櫻 花

川勝 芳三

水 暖 天 晴 風 色 新

水暖かに天晴れ 風色新にし、

流 鶯 愉 悅 啼 吭 頻

りゅうおう ゆえつ ろうこうしき
流鶯 愉悦し 啼吭頻りなり。

歡 聲 異 客 似 歌 曲

かんせい いがく かきょく に
歎声の異客 歌曲に似たり、

景 占 香 雲 渡 月 津

けい こううん し とげつ しん
景は香雲に占む 渡月の津。

(訳文)

例年より早くも春風暖かく桜花満開、

鳴は枝から枝へと飛びはね、又美しい声で鳴っている。

周囲は外國の人々が数多く、大きな歎声はどこかの歌の様に聞こえてくる、

渡月橋の付近は、景色深き趣の處最高です。

寄新年互礼会

久保 正鳳

日昇郷里希望春

ひ のぼ きょうり きぼう はる
日は昇る郷里希望の春、

山野煌煌意自新

さんや こうこう ここころおのす しん
山野煌煌として意自から新なり。

壽席相思虹色夢

じゅせき あいおも にじいろ ゆめ
寿席相思う虹色の夢、

更期躍進共榮輪

さら き やくしん きょうえい わ
更に期す躍進共榮の輪。

(訳文)

朝日が昇つて、私達の町に、希望の新年が明けました、

山野は陽光に照らされて光り輝く、私の心も新しい意欲が湧いてきました。

新年互礼会の席で互いに思うことは未来の明るい夢です、

今年も更に躍進し共に栄えるよう頑張って行きましょう。

閑歩春容聽鐘聲

小林 清夫

不盡餘光倚暮陰

尽つき余よこう光ぼいん暮よ陰いんに倚じる、

西山簫寂夕陽深

西山簫せいざんしょう寂じやくとして夕陽せきよう深ふかし。

禪宮鐘韻和風籟

禪宮ぜんぐうの鐘韻しょういん風籟ふうらいに和わす、

吹送氤氳情肯禁

吹送ふきおくる氤氳いんうん情じょうあえ肯たて禁えんえんや。

(訳文)

夕やみまで尽きることのない光を浴びながら、

西山に沈まんとする夕陽を眺めていると寂しさを感じてまいります。

折しもお寺の鐘が時を告げ、そよ吹く風と、うまく和み、

天地の気が程よく調い心がすつきり洗い流され、その音に聞き入った。

春日偶成

小林亨江

寒枝破蕾野花柔

寒枝
蕾を破り
野花柔かなり、

頃刻芬芳掠鼻流

頃刻
芬芳として
鼻を掠めて流る。

明媚風光林下路

明媚
風光
林下の路、

一春人醉逐晴遊

一春
人酔い
晴を逐うて遊ぶ。

(訳文)

漸く春になり野辺の花も寒さに耐えつぼみもふくらみ、
ふくよかな香りがただよい佳き時節となつてきました。
実に美しいこの景色には春を楽しみ、
酔いここちを味わいつつ日なたを探して歩んでいる。

苦蚊

坂本 敏一

深夜房中豹脚蚊

しんや ぼうちゅう ひょうきやく か
深夜の房中 豹脚の蚊、

如雷聒耳不堪聞

かみなり こと みみ かまひす き た
雷の如く耳に聒し聞くに堪えず。

刺膚吮血驚残夢

はだ さ ちす さんむ おどろ
膚を刺し血吮い 残夢を驚かす、

安所高眠和暑氣

いざく こうみん しょふん やわ ところ
安んぞ高眠の暑氣を和らぐ 所にあらんや。

(訳文)

深夜の寝室に、やぶ蚊が入り

耳元で雷の如く喧しく、聞くに堪えない。

肌を刺し血を吸うて夢見を驚かす。

早く枕を高くして眠りたいが、どうかしてこの暑さと蚊に困らずにいたいものであるが。

飾椿之落花

櫻井 登志子

三寸紅椿籬落邊

三寸の紅椿籬落の邊、

数葩觀止艷容專

数葩觀止す艷容專なり。

蘭花大皿豪華並

蘭花の大皿にぞ 豪華に並べ、

門戸照明相映鮮

門戸の照明相映じて鮮なり。

(訳文)

直径一〇厘ほどの、紅い椿の花が垣根の辺に、散つていてる。

花は美しく立派な花で、愛着を感じて、家に持ち帰り

蘭の花模様の大皿に、数個並べて、眺め、独り喜び楽しんでる。

玄関に飾り、電燈を付けるとひときわ鮮やかに輝いている。

無常迅速

佐々木一景

佳晴蝶戯繞芳叢

佳晴に蝶は戯れ芳叢を繞り、

冷露蛩啼霜草中

冷露に蛩は啼く霜草の中。

年月滔滔如逝水

歳月滔々として逝水の如し、

人生正是槿花同

人生正に是槿花に同じ。

(訳文)

暖かい春風に促され若草が芽吹き咲く花に蝶が戯れていたのが昨日の事の様に思われるのに、

今日はその草むらに花は無く、蝶の姿も無くしきりと啼く虫の音がすっかり秋だ、冬も近いと教えてくれる。何と季節の移り変わりの速いこと、歳月はまるで滔滔と流れる川の如く過ぎ去つて行く、

正に人の一生も、朝に咲いて夕べには散る朝顔の様なものだ、さすれば一日くを大恩に感謝しつつ生を励ましていこう。

春日郊行

竹下信治

由良川面散晨光

由良の川面に 晨光を散じ、

一帯青田野草芳

一帯の青田 野草芳し。

山影幾重映流景

山影 幾重 流景に映り、

堤頭獨歩喚清涼

堤頭 獨歩し 清涼を喚ぶ。

(訳文)

おだやかな由良の川面に朝日がふりそそいでいる、

流域一帯の青い稲の田、草木は芳しく香りを放つていて、

川の流れには山の影がうつり、緑の山々の重なる景色を望みながら、
一人り堤防の小路を歩き、爽やかな春の景色を楽しんでいる。

小泉川堤上櫻花

立林 好榮

春堤麗日水邊櫻

春堤の麗日水邊の桜、

來見紅塵虛落英

來り見れば紅塵虛しく落英。

懷舊故人同遊覽

懷旧す故人同に遊覽せしを、

獨憐天命憶君情

独り憐れむ天命君を憶うの情に。

(訳文)

わが家の前を流れる小泉川の堤の桜が、今年も満開で美しく咲きました。

今日来て見れば、満開を過ぎて、虚しくちらちらと、散り始めていました。

旧時のこと、亡くなつた主人と家族で、能く散策し桜を観賞しました。

今私は独りで、過ぎし日をおもい、主人を憐れみ、懐かしく思ひ偲んで居ります。

改元歳 来年

玉岡 瞳

昭和復活戰渦營

昭和は復活 戰渦の営みを、

天運陰陽坤不平

天は陰陽を運るも 坤平かならず。

己亥新將改元歳

己亥新たに 改元の歳を将つて、

人間安望記垂名

人間 安んじて 垂名を記すを望む。

(訳文)

昭和は激動の戰渦をおさめつつ復活し平成へとつづくのであるが、

天は日月暖寒定まらず天地は災害多く。

新たに来年己亥の歳を迎えることになる、

望むべくは人々が安心して暮らせる様な元号名を願うのである。

歴訪大塚国際美術館

辻 美代子

一家探美離洲行

孫配窮觀歩輦呈

一家美を探めんと
洲を離れて行く、

孫は窮觀に
歩輦を配して呈す。

何幸純乎親屬愛

何の幸いぞ
純乎たり
親屬の愛、

團欒遊旅謝恩程

團欒の遊旅
謝恩の程。

(訳文)

一家そろつて四国に渡り美術館に行つた、
美術館では私が老いの身で歩く事もままならず親切に手車を用意され。
何と幸せなること純情で心優しい乙女を見直し、
楽しい美術館での団欒に感謝一杯の心で良き思い出となりました。

訪因幡路

中川 岩雄

山陰一路曙光中

山陰一路曙光の中、

清景素波微午風

清景の素波午風微かなり。

碧海壯觀佳麗地

碧海壯觀佳麗の地、

因幡歸雁舞晴空

因幡の帰雁晴空に舞う。

(訳文)

早朝より因幡に向かつて車を走らす、
日本海の波は静かで爽やかな風が流れてくる。
又日御碕の灯台は夜には遠くまで光を放す、
その時雁の群れがまだ暮れぬ大空に向かつて飛び去つた。

新春偶成

橋本孝司

庭上梅花滿袖香

庭上の梅花満袖の香り、

新鶯細細促春裝

新鶯細細春裝を促す。

青雲志尚都如夢

青雲の志尚都て夢の如し、

自責空懷奈發揚

自責空懷發揚を奈せん。

(訳文)

庭の梅が開花し いい香りがします。

枝には鶯が来て、春だと鳴いています。

いろいろ描いた青雲の志は、満足するにはいたらず、夢に終わつてしまつた。今一度空しい思いを、あきらめず若き日の夢に挑戦したいと思つていますが。

古京秋情

長谷川 功

西郊山麓満村秋

西郊の山麓 満村の秋、
あき

霜葉碧天清氣流

霜葉 碧天 清氣流る。
せうよう へきてん せいきなが

緩歩蛩聲聞路傍

緩歩すれば蛩声 路傍に聞き、
かんぽ きょうせい ろぼう き

斜陽古刹四隣幽

斜陽の古刹 四隣幽なり。
しゃよう こきつ しりんゆう

(訳文)

秋の一日、西山連峰の秋の山麓を散策しました。

山の樹木は早くも紅葉をはじめ、碧天にうすい雲がかかり、秋の清気が広がる。ゆっくりと散策すれば、こうろぎの鳴く声が路傍より聞こえてくる。

夕陽に照らされ浮かぶ古刹。四辺は奥深く静かであります。古京長岡の秋です。

漢詩作詩研修会感懷

福岡 太郎

千古長岡都邑天

千古長岡都邑の天、

四時山水景風邊

四時の山水景風の辺。

賦詩吟詠同人集

詩を賦し吟詠す同人の集い、

學習生涯慕古賢

學習の生涯古賢を慕う。

(訳文)

千年以上の昔、天子の皇居の有つた、乙訓の長岡京。

四季の山水(景色)の美しい、穏やかな天地です。

詩を作り、吟詠する同志も多く、俱に集い楽しんで居ります。

生てる限り漢詩の学習をして先人の知識を学びたいと思います。

古都洛外西山春日

林 克宏

清景 西山風日温

清景の 西山風日温かく、

韶光亦好別乾坤

韶光亦好別乾坤。

落紅躡躅春心蕩

落紅の 踵躅 春心蕩たり、

樹影溪流一水奔

樹影の 溪流 一水奔る。

(訳文)

清らかな景色の西山、今日は風も日も温かく、
春ののどかな光が映じて、別天地の様であります。

躡躅(つつじ)の花がおわりに近く、はらはらと散り注ぎ、吾が心は揺らぐ。
青々とした樹影の中を一本の谷川の水が勢いよく流れ落ちている。

詠 西郷 隆盛

藤田 忠

辛酸幾圈志逾堅

辛酸幾たびか圈りて志逾よ堅し、

討幕東征對敵前

討幕の東征敵前に対す。

無血開城為救世

無血開城救世を為し、

賢豪博愛古今傳

賢豪博愛古今に伝う。

(訳文)

下級武士に生まれ青年期に藩主、藩政とのいさかいや二度の流罪そして將軍との決別等に翻弄されて、遂に明治維新の國づくりへの志を強く決意した。

討幕に当る官軍の総大将として幕府江戸に向かう。

敵将勝海舟とぎりぎりの交渉を見事に成功させ江戸を戦乱から守り民を救った。知略に富む豪傑と万民への慈愛、これぞ永遠に語り継がれるだろう。

夏日午眠

前田 正子

解衣無効奈驕陽

衣を解くも効無く 驕陽を奈んせん、

北牖纔餘一味涼

北牖纔かに余す一味の涼。

塵事相忘清快夢

塵事相忘れ 清快の夢、

少閑至福黑甜康

少閑の至福 黒甜康かなり。

(訳文)

上衣を脱いでもこの暑さはどうしようにもありません。

それでも北の窓に少しだけ凉しさを感じるところがありました。

日々の煩わしい事をしばらく忘れて楽しい夢をみます。

わずかな時間ですが、この昼寝が私にとっては至福の刻なのです。

西国巡礼

水木 静爽

朱明時節索心和

朱明の時節 心の和を索め、

古寺尋來拝弥陀

古寺尋ね來りて 弥陀を拝す。

遙睹雲行葛城嶂

遙に 雲行を睹る 葛城の嶂、

山堂獨坐悟如何

山堂 獨坐し 如何を悟る。

(訳文)

初夏の爽やかな時節に河内の楓尾山、施福寺(西国札所)を訪ねた。

山深く登る道もきつく 汗滴る後に古寺の仏に遇した。

そこからの眺めは素晴らしい、遠く葛城の連山、金剛の峯々を望む。鳥の声を聞きながら心静かに、山堂に坐して、自分と向き合つた。

新秋偶感

山際 和子

金風瑟瑟聽蟲聲

きんぶう しつしつ ちゅうせい き
金風瑟瑟として 虫声を聴く、

夕映西山新月清

せきえい せいざん しんげつきよ
夕映の西山 新月清し。

傘壽爾來心未老

さんじゅ じらい こころいま お
傘寿爾來 心未だ老いず、

更親趣味雅懷盈

さら しゅみ した がかいみつる
更に趣味に親しみ 雅懷盈を。

(訳文)

暑い夏が漸く過ぎ爽やかな季節が巡って来ました、

季節が良くなると気持ちも高揚し。

既に八十才を越えた私ですが、

まだまだ趣味も続け、余生を風流な思いで送りたいと思います。

一枝竹図

山科 三千代

幽庭一竹舞微風

幽庭の一竹
微風に舞う、

斜照穿雲介帳通

斜照
雲を穿ち
帳を介し通ず。

添得筆翰明墨技

添え得たり
筆翰
明墨の技、

化龍君子畫屏中

竜と化す君子
画屏の中。

(訳文)

静かな庭に竹が微風に舞っています。夕日は雲を穿ち帳を介して通します。
添えられている書画の技術はあたかも竜と化した様な竹が描かれています。

洛西紀行

山本 長司

自然明媚大原郷

しぜん めいび おおはら さと
自然の明媚 大原の郷、

西蓋雲煙稻穂黃

にし うんえん おお
西のかた雲煙に蓋われ 稲穂黃なり。

松似遊龍善峰寺

まつ ゆうりゅう に
松は遊竜に似る 善峰寺、

名勝奇趣愛風光

めいしよう きしゅ ふうこう あい
名勝の奇趣 風光を愛す。

(訳文)

自然に恵まれた大原の地は素晴らしい、

西の方を眺めると雲やもやが立ち込め稻穂の色どりが見事だ。

善峰寺の遊竜の松は相応して舞っているよう、

有名な伽藍を拝し心洗われたこの景色に満喫した一日であった。

金剛山登山

和田 敦子

雨餘晴徑野花妍

雨余の晴径野花妍なり、

信歩獨行臨壑邊

歩に信せ獨行壑邊を臨む。

何也同朋徒涉態

何ぞや同朋徒渉の態、

翠嵐眺望葛城巔

翠嵐眺望葛城の巔。

(訳文)

雨晴れて山の道は野花が美しいです、
歩にまかせてひとり壑邊に臨みました。
なんと友が徒渉しています、
みどりの山を遠く眺める葛城の山の頂きです。

長岡京漢詩作詩研修会の歩み活動報告

1. 研修会活動経緯及び研修内容

- ・吟道賀堂流長岡京吟詠会の有志によって立上げ
- ・第1回開催：平成15年5月24日
- ・研修内容：漢文の知識と漢詩のあじわい方、漢詩作詩の基礎、漢詩鑑賞、漢詩作詩の事例紹介と講評等

2. 漢詩作詩研修会開催履歴

回数	開催日	開催場所	参加人員
1	2003/5/24（土）	中央公民館1階レクリエーション室	45
2	2003/8/2（土）	産業文化会館3階2会議室	29
3	2003/11/30（日）	中央公民館1階レクリエーション室	37
4	2004/2/8（日）	婦人教育会館1階第5研修室	28
5	2004/5/22（土）	産業文化会館3階2会議室	39
6	2004/8/21（土）	産業文化会館3階第1、2会議室	32
7	2004/11/13（土）	婦人教育会館2階会議室	29
8	2005/2/20（日）	産業文化会館3階第1、2会議室	33
9	2005/5/3（祝日）	中央公民館2階講座室	25
10	2005/8/21（日）	中央公民館2階講座室	30
11	2005/11/19（土）	中央公民館2階講座室	22
12	2006/2/12（日）	産業文化会館3階第1、2会議室	28
13	2006/4/30（日）	中央公民館2階講座室	26
14	2006/8/19（土）	中央公民館2階講座室	21
15	2006/11/25（土）	中央公民館2階講座室	23
16	2007/2/4（日）	産業文化会館3階第1、2会議室	39
17	2007/5/20（日）	産業文化会館3階2会議室	28
18	2007/8/18（土）	中央公民館2階講座室	27
19	2007/11/4（日）	産業文化会館3階第1、2会議室	40
20	2008/3/9（日）	中央公民館2階学習室2	35
21	2008/7/13（日）	中央公民館2階学習室2	35
22	2008/11/23（日）	中央公民館2階学習室2	30

回数	開催日	開催場所	参加人員
23	2009/1/11 (日)	中央公民館 2階講座室	64
24	2009/3/8 (日)	中央公民館 2階講座室	55
25	2009/5/10 (日)	中央公民館 2階講座室	50
26	2009/7/5 (日)	中央公民館 2階講座室	49
27	2009/9/27 (日)	中央公民館 2階学習室 2	36
28	2009/11/22 (日)	中央公民館 2階講座室	45
29	2010/3/7 (日)	中央公民館 2階講座室	37
30	2010/7/18 (日)	中央公民館 2階講座室	31
31	2010/11/28 (日)	産業文化会館 3階 第1、2会議室	22
32	2011/1/30 (日)	中央公民館 2階学習室 2	25
33	2011/3/6 (日)	産業文化会館 3階 第1、2会議室	24
34	2011/5/1 (日)	中央公民館 2階講座室	22
35	2011/7/3 (日)	中央公民館 2階学習室 2	35
36	2011/11/19 (日)	産業文化会館 3階 第1会議室	16
37	2012/1/29 (日)	中央公民館 2階学習室 2	25
38	2012/3/25 (日)	中央公民館 2階学習室 2	20
39	2012/7/29 (日)	中央公民館 2階講座室	38
40	2012/9/2 (日)	中央公民館 2階学習室 2	17
41	2012/11/4 (日)	産業文化会館 3階 第1会議室	18
42	2013/1/13 (日)	中央公民館 2階視聴覚室	21
43	2013/3/24 (日)	中央公民館 2階学習室 2	18
44	2013/7/28 (日)	中央公民館 2階講座室	40
45	2013/9/1 (日)	中央公民館 2階学習室 2	14
46	2013/11/4 (月)	産業文化会館 3階 第1会議室	18
47	2014/1/19 (日)	産業文化会館 3階 第1会議室	16
48	2014/3/2 (日)	中央公民館 2階学習室 2	14
49	2014/7/27 (日)	中央公民館 2階学習室 2	26
50	2014/9/14 (日)	中央公民館 2階学習室 2	16
51	2014/11/16 (日)	中央公民館 2階学習室 2	12
52	2015/1/18 (日)	産業文化会館 3階 第1会議室	16
53	2015/3/7 (土)	産業文化会館 2階 第1会議室	19

回数	開催日	開催場所	参加人員
54	2015/7/26 (日)	中央公民館 2階講座室	28
55	2015/9/13 (日)	中央公民館 2階学習室 2	18
56	2015/11/3 (祝日)	産業文化会館 3階 第1会議室	16
57	2016/2/7 (日)	中央公民館 2階学習室 2	21
58	2016/7/18 (祝日)	産業文化会館 3階 第1会議室	25
59	2016/11/3 (祝日)	産業文化会館 3階 第1会議室	12
60	2017/2/5 (日)	産業文化会館 3階 第1会議室	15
61	2017/8/13 (日)	中央公民館 2階講座室	27
62	2017/11/3 (祝日)	産業文化会館 3階 第1会議室	7
63	2018/2/11 (日)	産業文化会館 3階 第1会議室	9
64	2018/8/11 (祝日)	産業文化会館 3階 第1会議室	20
65	2018/11/3 (祝日)	中央公民館 2階学習室 2	

3. 漢詩作詩初心者研修会開催履歴

回数	開催日	開催場所	参加人員
1	2007/4/15 (日)	産業文化会館 3階 第1会議室	30
2	2007/7/1 (日)	産業文化会館 3階 第1、2会議室	22
3	2008/1/13 (日)	中央公民館 2階学習室 2	28
4	2008/5/4 (日)	中央公民館 2階講座室	34
5	2008/9/28 (日)	中央公民館 2階講座室	24
6	2009/4/5 (日)	中央公民館 2階講座室	25
7	2009/10/4 (日)	中央公民館 2階学習室 2	13
8	2010/5/2 (日)	中央公民館 2階講座室	25
9	2010/9/19 (日)	中央公民館 2階講座室	9
10	2011/9/4 (日)	中央公民館 2階学習室 2	14
11	2012/5/3 (祝日)	中央公民館 2階学習室 2	14
12	2013/5/3 (祝日)	中央公民館 2階学習室 2	16
13	2014/5/3 (祝日)	中央公民館 2階学習室 2	11
14	2015/5/4 (祝日)	産業文化会館 3階 第1会議室	12
15	2016/5/4 (祝日)	中央公民館 2階学習室 2	17
16	2017/5/4 (祝日)	中央公民館 2階学習室 2	12

回数	開催日	開催場所	参加人員
17	2018/5/4（祝日）	産業文化会館 3階 第1会議室	9

4. 特別活動

- (1)2005年3月：「吟詠・漢詩交流特別訪中団」（寧波・天台山・桂林を訪ねて）の企画主催（第2回日中友好漢詩交流会交流記念漢詩集も発行）
- (2)2006年9月：特別史跡旧閑谷学校釈菜献詩応募（6首）及び10月28日釈菜参加（4名）
- (3)2006年12月：漢詩集（古京風韻）の創刊号発行
- (4)2007年9月：当月より毎月、京都新聞の「乙訓文芸ひろば」に漢詩を掲載
- (5)2007年12月：漢詩集（古京風韻）の第二号発行
- (6)2008年4月：「吟詠・漢詩交流特別訪中団」（寧波漢詩交流と江南を巡る旅）の企画主催（長岡京市・寧波市友好都市締結25周年記念）
- (7)2008年6月：長岡京市文化協会教養生活部に加入
- (8)2008年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (9)2008年12月：漢詩集（古京風韻）の第三号発行
- (10)2009年1月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (11)2009年7月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (12)2009年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (13)2009年12月：漢詩集（古京風韻）の第四号発行
- (14)2010年1月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (15)2010年1月：文化講演会主催
- (16)2010年6月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (17)2010年8月：公民館ギャラリーに漢詩作品展示
- (18)2010年10月：「竹まつり」に漢詩作品展示
- (19)2010年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (20)2010年12月：漢詩集（古京風韻）の第五号発行
- (21)2011年2月：「第4回寧波漢詩交流会」（漢詩作品展示会も実施）
- (22)2011年7月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (23)2011年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (24)2011年11月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (25)2011年12月：漢詩集（古京風韻）の第六号発行

- (26) 2012年4、5月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (27) 2012年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (28) 2012年11月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (29) 2012年12月：漢詩集（古京風韻）の第七号発行
- (30) 2013年4月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (31) 2013年10月：中国旅行（湖南省と湖北省6日間）
- (32) 2013年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (33) 2013年11月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (34) 2013年12月：漢詩集（古京風韻）の第八号発行
- (35) 2014年4月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (36) 2014年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (37) 2014年10月：中国旅行（江西省5日間）
- (38) 2014年11月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (39) 2014年12月：漢詩集（古京風韻）の第九号発行
- (40) 2015年4月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (41) 2015年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (42) 2015年10月：中国旅行（河南省5日間）
- (43) 2015年11月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (44) 2015年12月：漢詩集（古京風韻）の第十号発行
- (45) 2016年4月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (46) 2016年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (47) 2016年12月：漢詩集（古京風韻）の第十一号発行
- (48) 2017年4月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (49) 2017年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (50) 2017年12月：漢詩集（古京風韻）の第十二号発行
- (51) 2018年4月：JR長岡京地下道「市民ギャラリー」に漢詩作品展示
- (52) 2018年10月：「市民文化まつり」に漢詩作品展示
- (53) 2018年12月：漢詩集（古京風韻）の第十三号発行

編集後記

福岡 太郎

今年の古京風韻十三号も、長岡京漢詩作詩研修会の会員の皆様の協力のおかげで、例年の如く数多くの漢詩作品が集まり大変嬉しくおもいます。

漢詩は東洋文学の最高峰と言われる如く、二十八字の漢字から成り崇高で読んで歯切れが良く又、漢字の深い意味、読むほどに含蓄を感じ、読む人に感動与える四行の起承転結の詩を誇りに思います。

私も漢字辞典と睨みっこして苦労しますが、漢字の深い意味や、漢字の組み合わせによって、意味が深まつたり、柔らかくなつたり。まさに生涯学習だなど、自分を叱咤激励。出来上った漢詩を読みかえし、まあまだだと自己満足。古京風韻の一頁に加えて頂き、記録され後生の人達に伝わると思いながら。幸いに、漢詩作詩研修会の皆さん、毎年、製本された古京風韻をお手渡しすると笑顔で受け取りに成られることに安堵し、うれしくおもいます。

最後になりましたが、関係の諸先生方のご努力に感謝し又、印刷製本の京都市洛南障碍者授産所の皆様に大変お世話になりました。誠に厚く感謝申しあげます。

平成三十年十一月吉日

漢詩作詩研修会

相談役 小林清夫
代表 伊藤鉄雄

世話人 福岡太郎

川勝芳三

立林好栄

櫻井登志子

古京風韻編集委員会
編集員 伊藤鉄雄

福岡太郎

川勝芳三

表紙揮毫 山本保夫

